

症例報告

## 研修歯科医から大学院生に立場が変わったことで生じた 態度に関する認識の変化

板 家 朗<sup>1)</sup> 鬼 塚 千 絵<sup>1)</sup> 永 松 浩<sup>1)</sup>  
喜 多 慎 太 郎<sup>2)</sup> 西 野 宇 信<sup>1)</sup> 木 尾 哲 郎<sup>1)</sup>

**抄録：**九州歯科大学附属病院総合診療科にて歯科医師臨床研修修了後、総合診療学分野大学院に進学した3名を対象とし、研修歯科医（以下、研修医）から大学院生へ立場が変わったことで起きた態度に対する認識の変化を調査した。その結果、態度に関する認識は「見る」「見せる」「見える」という順序で変化することがわかった。この認識の変化はそれぞれの立場で生じ、立場が変化することで繰り返され、らせん状に発達すると考えることができた。態度に関する認識は異なる立場である教員や研修医と接することで刺激を受けたものと考えられる。

**キーワード：**プロフェッショナリズム ロールモデル 態度 隠れたカリキュラム

### 緒 言

プロフェッショナル教育は知識レベルの教育に始まり、時期を追って態度や姿勢（心構え）、そして実際の行動レベルへと実践的・継続的に行うのが好ましいとされている<sup>1)</sup>。またプロフェッショナルのあり方を身をもって示してくれるようなロールモデルの存在や文化・環境に身をおくことも重要であると言われている<sup>1-3)</sup>。さらにプロフェッショナル教育を行う上でおこる隠れたカリキュラム問題の解決には、指導する側が学習者にとっての「良きロールモデル」となり、講義室以外でも、実際に行動で示す事が最も重要である。つまり、単に「知っている」ではなく「している」という姿を行動によって示す事が必要であると言われている<sup>4)</sup>。

本研究の目的は、時系列に沿って立場が変化した歯科医師の省察を調査し、異なる立場の相手と関わりあうなかで医療者としてのプロフェッショナルな態度への認識はどのように変化するのかを明らかにすることにある。

### 対象および方法

表1に概要を示す研修合宿に、一回目は研修医として参加し、二回目以降はスタッフとして企画・運営に関与した経験を持つ大学院生3名を対象とした。

平成26年7、8月に、対象者に研究目的を口頭及び書面にて説明し、書面にて同意を得た後に、筆頭著者

が半構造化インタビューを行った。質問は以下の三項目とした。

- ①研修医として参加した時に感じたこと
- ②スタッフとして参加した時に感じたこと
- ③研修医からスタッフになり感じた違い

得られた意見より態度・姿勢に関する気づきについてカテゴリーに分類した。その後、研修医・大学院生・教員の立場の違いについての概念図を作成した。

本研究は九州歯科大学研究倫理委員会の承認を受けた上で実施している（承認番号14-65）。

### 結 果

インタビューより得られた意見の抜粋を表2に示す。得られた意見は現在の立場から研修医・大学院生として参加したことを振り返ったものである。

研修医として参加した時は、「時間を守る」といった社会人としての自覚を実感したという意見が得られた。「環境になじめた」、「仲良くなれた」等の合宿参加者としての受け身の感想や、「教員がどのような先生なのか知ることができてよかった」という教員（合宿実施者）のことを観察している意見が得られた。

スタッフとして参加した時には、「研修医のために」「裏方」といったスタッフとしての運営に関する意見が挙げられた。さらに合宿の準備・実施での教員の仕事ぶりや振る舞いを見て大学院生と教員の能力の差を感じたという意見があった。

研修医とスタッフの違いに関しては「見られる側

<sup>1)</sup>九州歯科大学総合診療学分野（主任：木尾哲郎教授）

<sup>2)</sup>キタ忍歯科医院

<sup>1)</sup>Division of Comprehensive Dentistry, School of Dentistry, Kyushu Dental University (Chief: Tetsuro Konoo) 2-6-1 Manazuru, Kokurakita-ku, Kitakyushu City, Fukuoka 803-8580, Japan.

<sup>2)</sup>Kita Shinobu Dental Clinic

表 1 研修合宿の概要

目的：コミュニケーション能力の向上，チームワークの意義を学ぶ，社会人としての態度・習慣を身につける 主催：九州歯科大学総合診療学分野（教員，医員，大学院生） 場所：自然学習村源じいの森 対象：総合診療科で研修を行う研修医のうち希望者 期間：一泊二日（四月） 研修合宿の内容 ▷アイスブレイキング・・・他己紹介 ▷共同作業・・・カレー作り ▷協力ゲーム・・・ディスクカリング ▷ワークショップ・・・患者の視点に立ったインフォームドコンセント，アンプロフェッショナルな行為の実際 ▷ボランティア・・・ゴミ拾い ▷体験学習・・・高齢者疑似体験
---

表 2 インタビューの結果（抜粋）

①研修医として参加した時に感じた事 ・他大学出身者にとって合宿は本学出身者の輪に入りやすい環境だった。 ・総合診療科の雰囲気になじむことができる。 ・同期と仲良くなることができた。 ・指導医の先生の事を知れてよかった。 ・研修終了後に再開した時に合宿は思い出話になる。 ・時間を守ることを改めて学んだ。 ・社会人としての第一歩だった。 ②スタッフとして参加した時に感じたこと ・研修医のためになるようにスタッフとして働かないといけない。 ・研修医の時は知らなかったが裏方の仕事は大変ということが理解できた。 ・今になって〇〇先生の（教員）凄さがわかった。 ③参加者からスタッフになり違いを感じた事 ・研修医の積極性，協調性，相性や性格等を考えながら研修医を見るようになった。 ・病院では分かりにくい性格を合宿という環境では知ることができる。 ・カレー作りと歯科診療は準備から片付けまで行う点で似ている。カレー作りの際に現れる行動は歯科診療の際にも現れるのではないかと。 ・大学院生は指導医の先生よりも研修医と関係性が近い為緊張感のない関係にならないように立場には注意が必要。 ・自分たちがだらっとすると研修医もそれを見てだらけてしまうのどっきりしないといけない。 ・研修医と技術や知識に大きな差は無いかもしれないが自分の立場にあった態度を取らねばならない。
--

から見る側になった」，「研修医の性格を考え，今後どのように接し，教えるか考えるようになった」といった立場の変化により視点が変わり教えることの自覚を持ったという意見があがった。一方で「大学院生自身がだらけると研修医もそれを見てだらける可能性があるのどっきりしないといけない」という研修医のお手本になる必要性に気付いた意見があった。

**見る能力**

以前の立場の者の性格や人となり，態度を観察する能力

**見せる能力**

現在の立場での適切な態度を体現し，相手に理解出来るように現して教える能力

**見える能力**

上の立場の者がとっている態度の真意を考える能力

関連する言葉

観察、見る、観る、見守る、世話、見極める、見定める

現す、見せつける、振る舞う、指し示す、兜弾、お手本、魅せる

見ぬく、察する、吟味、感じる、真意を考える

図 1 「見る・見せる・見える」能力の概念

半構造化インタビューで得られた意見から，大学院生が異なる立場である研修医・教員と接することで何を機に態度の認識に変化が起きたのか分析を行った。態度を認識する能力を「見る能力」，「見せる能力」，「見える能力」と名付けた。その概念を図 1 に示す。

「見る能力」

「研修医の積極性，協調性，相性や性格等を考えながら研修医を見るようになった」，「病院では分かりにくい性格を合宿という環境では知ることができる」，「カレー作りと歯科診療は準備から片付けまで行う点で似ている。カレー作りの際に現れる行動は歯科診療の際にも現れるのではないかと」という意見が得られた。これらの意見から大学院生は研修医がうまくいくために研修医の積極性，協調性，相性，性格等，態度や人となりを観察し考慮していると思われる。この観察する能力を「（相手の態度を）見る能力」とした。

「見せる能力」

「大学院生は指導（歯科）医よりも研修医と年齢や立場が近い緊張感のない関係にならないように自身の立場を自覚することが必要」，「自分たちがだらっとすると研修医もそれを見てだらけてしまうかもしれないのどっきりしないといけない」，「研修医と技術や知識に大きな差は無いかもしれないが自分の立場にあった態度を取らねばならない」という意見から，大学院生は上級医としての自覚を持つようになり適切な振る舞いを示すことを心がけるようになっていた。このように適切な態度を示す能力を「見せる能力」とした。

「見える能力」

「指導（歯科）医の先生の事を知ることができてよかった」，「研修医の時は知らなかったが裏方の仕事は大変ということが理解できた」，「今になって教員の凄さがわかった」という意見から，大学院生は教員の態度の意図をくみ取ることが出来るようになったことがわかった。この態度の意図を察する能力を「見える能力」とした。

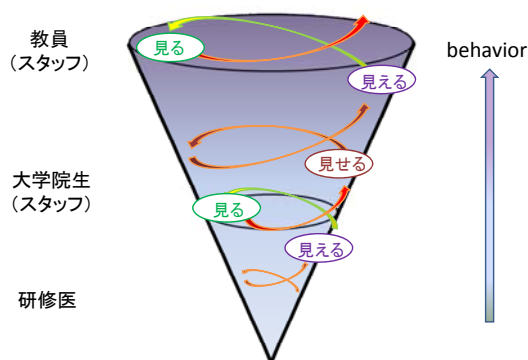


図2 能力変化の概念図 (らせん型)

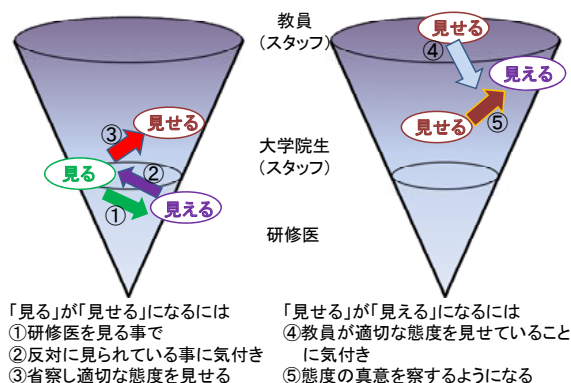


図3 異なる立場との関係性を示す概念図

## 考 察

大学院生の「見る・見せる・見える」能力の変化についての概念図を図2に示す。また図3では異なる立場との関係性を示す。

以下に記すように「見る」、「見せる」、「見える」という段階を経て態度に関する認識は変化したと考えられる。

研修合宿の参加者である研修医から大学院生スタッフに立場が変化することで、先輩歯科医としての自覚が生まれ、研修医を「見る能力」が求められるようになった(図3-①)。

大学院生は数年前の研修医としての経験がある。そのため研修医の態度が理解できたので「見る」ことができた。研修医を「見る」と、反対に一部の研修医から見られている事に気付き(図3-②)、省察しロールモデルとなるよう心がけた。ロールモデルとなるよう心がけたことで誤解を与えるような態度・振る舞いをしていないか、研修医時代の経験から、参加者である研修医の態度を分析し、ロールモデルとしての態度を「見せる」ようになった(図3-③)。自身が研修医に適切な態度を示すのと同様に、教員が研修医と大学院生に教員としての適切な態度を示していることに気付いた(図3-④)。教員のとる態度を察することで、自身は経験のない立場や態度が「見える」ようになった(図3-⑤)。

大学院生は立場が変化したこと、上の立場である教員や下の立場である研修医と接したことで、態度に関する認識が「見る」、「見せる」、「見える」という過程を経て変化したと考えられる。異なる立場の態度を認識することで自身の態度は成長すると考えられ、立場や職位が変化しても同様の過程で成長すると思われる。この態度に関する認識は立場の変化によって繰り返され、らせん状に成長すると考えられる(図2)。

「見る」、「見せる」、「見える」順序で態度に関する気付きは立場が変化することでらせん状に成長すると

考えられたことから、自身のロールモデルとなりうる上の立場の者から学ぶことが効率的だと推察される。

教員は合宿中にロールモデルとしての姿を示していた。しかし「見る」から「見せる」、「見せる」から「見える」への変化は個人の気付きの能力に左右されていた(図3)。そのため学習者全員が気付くことができるような方法で態度に関する認識を教える必要があると考えられる。

大学院生の態度は教員の態度から影響を受けており、大学院生がその態度を研修医に見せることで研修医の態度に影響を及ぼしている。総合診療科という組織の中で上の立場から下の立場に向かって態度は示されていた。上の立場の者の示した態度を下の立場の者が学び、態度の変化は起きると推察される。このことから組織の中での「している姿」は上の立場から下の立場に向けて伝わっていると考えることができる。

## 結 論

研修合宿にスタッフとして参加した大学院生は、立場が変化し上級医としての自覚を持つようになり、研修医の性格や態度を観察するようになる。そして研修医に対し適切な態度を示すようになり、教員の適切な振る舞いを察するようになると考えることができる。下の立場の態度を見て、下の立場へ正しい態度を見せ、上の立場の態度が見えるようになる、という順序で異なる立場と関わり合うなかで態度は成長していると推察される。

この成長は立場が変化し新たな職位でも同様に「見る」「見せる」「見える」という順序で成長すると思われる。そのため態度は立場と共にらせん状に育まれると考えられる。

今回の調査では研修合宿を対象としたが、それ以外の場面ではどのようにして態度の変化が起きるのか調査する必要があると言える。

## 文 献

- 1) 大生定義. 医学教育とプロフェッショナリズム. 日医大医会誌 2011 ; 7 : 124-128.
- 2) 木尾哲郎, 俣木志朗, 藤崎和彦, 大西弘高, 小川哲次, 他. 歯学士教育課程におけるプロフェッショナリズム教育の構築. 日本歯科医学教育学会雑誌 2013 ; 29 : 63-74.
- 3) 木尾哲郎, 尾崎哲則, Michael F Burrow, 平田創一郎. 歯科医療人プロフェッショナリズム教育における新しい潮流. 日本歯科医学教育学会雑誌 2014 ; 30 : 24-27.
- 4) 板井孝彦. プロフェッショナリズム教育と, その実践の根底にあるもの—「隠れたカリキュラム hidden curriculum」—. 日本内科学会雑誌 2012 ; 101 : 201-205.

## 著者への連絡先

板家 朗

〒 803-8580 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1

九州歯科大学歯学部 総合診療学分野

TEL 093-582-1131 内線 7913 FAX 093-582-6000

E-mail : r13itaya@fa.kyu-dent.ac.jp

---

Change of the recognition about the behavior occurred by the change of viewpoint  
of the trainee dentist and the graduate student

Akira Itaya<sup>1)</sup>, Chie Onizuka<sup>1)</sup>, Hiroshi Nagamatsu<sup>1)</sup>,  
Shintaro Kita<sup>2)</sup>, Takanobu Nishino<sup>1)</sup> and Tetsuro Konoo<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>Division of Comprehensive Dentistry, School of Dentistry, Kyushu Dental University

<sup>2)</sup>Kita Shinobu Dental Clinic

**Abstract** : We interviewed for changing of position and changing of the behavior to the three graduate students who passed through clinical practice at department of comprehensive dentistry, Kyushu Dental University Hospital. We found that recognition about the behavior changes “look” to “show” and “show” to “look through”. This changing occurred at each positions and repeat the similar development. And we considered that the recognition changing as dentist developed like spiral. We discussed that touching the behavior of other position influenced the development of the recognition.

**Key words** : Professionalism, role model, behavior, hidden curriculum